２０２３年１０月１日（日）　　日本基督教団　大宮教会

聖霊降臨節第１９主日

世界聖餐日・世界宣教の日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

朝第１礼拝 9:00～10:10
朝第２礼拝 10:30～12:00

〈神の招き〉
前奏　①キリスト、我らの救い主1　シャイデマン
　　②キリスト、我らの救い主　バッハ
招きの詞　詩編１４６：１～２
交読詩編　７３：２１～２８
讃美歌　２０
〈神の言葉〉
聖書　サムエル記上２１：２～７
（旧約　新共同訳　463 頁）
マルコによる福音書２：２３～３：６
祈祷　（新約　新共同訳　64 頁）
幼児祝福②
讃美歌①　５６
奉唱②　４０９
説教　「安息日の主」　熊江秀一牧師
祈祷
黙想
讃美歌　３７６
聖餐　席上で与ることができます。ご心配の方は、配餐後に、ご自宅にて与ってください。
讃美歌　７９
〈神への応答〉
信仰告白　日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告②
頌栄　２９
派遣と祝福
後奏　①キリスト、我らの救い主2　シャイデマン
　　②主なる神よ我らは賛美する　バッハ
宣教報告①

夕礼拝 18:00～19:10

〈神の招き〉
前奏　イエス、わが喜び　ヴァルター
招きの詞　詩編１４６：１～２
交読詩編　７３：２１～２８
讃美歌　２１３
〈神の言葉〉
聖書　アモス書６：１～７
（旧約　新共同訳　1436 頁）
ヤコブの手紙２：１～９
祈祷　（新約　新共同訳　422 頁）
讃美歌　５６０
説教　「分け隔てしない」甲賀正彦伝道師
祈祷
黙想
讃美歌　４１８
聖餐　席上で与ることができます。ご心配の方は、配餐後に、ご自宅にて与ってください。
司式　熊江秀一牧師
讃美歌　７９
〈神への応答〉
信仰告白　日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄　２９
派遣と祝福
後奏　主よ、我は汝により頼む　パッヘルベル

今週の御言葉
（マルコによる福音書２：２７～２８）
そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。」

次週の礼拝（１０月８日）

① ９：００、② １０：３０	夕 １８：００
説教「押しつぶされそうになる主」熊江秀一牧師	説教「仲間を迎え入れる」甲賀正彦伝道師
イザヤ書６：３～７、マルコによる福音書３：７～１２	レビ記２５：３９～４６、フィレモンへの手紙８～２２
交読詩編８２：１～８	交読詩編８２：１～８
讃美歌２１、８３、４０２、２９	讃美歌２１７、３５５、４３１、２９

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕はタ礼拝。

■今週の祈祷課題■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。
１．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に　２．東日本大震災とトルコ・シリア地震の被災者の為に　３．10 月の宣教の為に　４．神学校日・伝道献身者奨励日の為に
５．ウクライナとスーダン、世界の平和の為に　６．病気の兄姉の為に

＊関東教区お祈りカレンダー　水戸中央教会　水戸自由が丘教会　土浦教会

◇先週の説教より　「何も持たずに生まれ」テモテへの手紙一６：１～１２、アモス書８：４～７　甲賀正彦伝道師

私たちは何も持たずに、裸でこの世に生まれ落ちました。本籍は天国にあります。本国から派遣されてきたのです。この世は仮の住まい。だから「生きるのが辛い」とか「この世の居心地が良くない」と思うなら、それは当然かもしれません。ホームではなくアウェイに乗り込んできたのですから。

任務が終了すると、私たちは本国に帰っていきます。何も持ち出すことはできません。全てを手放して帰っていきます。「我々はどこから来て、どこへ行くのか」、神様のもとから来て、神様のもとに帰るのです。その間、与えられた人生をどう生きるか、それが問われています。

もっと欲しがる欲望が問題です。欲望は、奪う、ねたむ、憎む、自己中心になる、正義を軽んじる、裏切る、そして殺人へと至ります。だからパウロは言います、「食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです」。満足するとは、不正の黙認ではありません。私たちは満足と正義を結びつけます。欲望は自己を破滅させますが、満足は足りないものをイエス様で満たします。

ナルドの香油の壺を割ってイエス様の頭に注ぎかけた女は、自分にできうる限りの感謝と愛を表しました。香油を持たない人も、神様への感謝と愛を表します。私たちに命を与えて、素晴らしいこの世界に住まわせ、生かしてくださる、その神様を褒め称え、恵みに感謝する。他に何ができるでしょう？

素晴らしい環境と養育者も与えられました。貰いっぱなしでは落ち着かないです。お礼をしたい。でも、この命に見合う返礼品などありません。値段もつけられません。私たちにできることは神様を愛し、できる限りの感謝を表すこと。それは欲望の反対側にあるものです。